教うるは 学ぶの 半ばなり

R５南信教育事務所だより

教学半也

令和５年７月１４日
No.４

課題を明確にし、自己課題の設定につなげる

初任者研修にたずさわる全読者対象

初任者研修　授業力向上研修Ⅰ（５/９）　教師力向上研修Ⅰ（６/６）

５月９日に行われた「授業力向上研修Ⅰ」は、各地区の先輩先生の授業参観や研究会を通して実践的な指導力を養う初任者研修として、３年ぶりに全地区で参集して実施することができました。児童生徒の学びの姿、先輩先生の児童生徒への接し方や語り掛けを肌で感じることができました。また、校長先生や教頭先生のご講話から、教師として大切にしていきたいことに気付くことができました。

子どもたちがいきいきと発言したり活動を行ったりしていて、理想的な姿だと思いました。授業者の先生が、丁寧に教材研究を行ったり、子どものことをしっかり理解していたりするからだと研究会を通して感じました。

振り返りの場面で、子ども自身がどのように変化したのか、考え方がどのように更新されたのかに着目することで、自身の成長に気付くことができ、その日の学びが明確になると感じました。参考にしたいです。

また、６月６日に行われた「教師力向上研修Ⅰ」は、初任者の先生方同士で目指す教師像の共有や学習指導に関わる情報交換を行うことを通して、本年度の自己課題を決定していく研修でした。初任の先生方は、日々の授業実践に加え、校外研修でも「目指す授業」について協議したり、授業参観で「目指す授業」の具現に向けた具体的な取組をイメージしたりしてきました。そして、以下のような自己課題を設定することができました。

自己課題の設定について

「『分からない』『困った』が言える」「間違っても大丈夫」と思えるような、安心して学ぶことができる授業

直接触れたり、納得できるまで確認する時間を十分に設定したりして、考えを深めることができる授業

やってみたい！考えてみたい！！と全員が感じ、一つでも多くの「できた・わかった」が実感できる授業

学習問題・学習課題を子どもの言葉で設定し、全員が同じめあてに向かって学び合うことができる授業

各校の初任の先生方は、どのような自己課題を設定しているでしょうか。**設定に至るまでの過程**も含めて校内で話題にすることで、初任者の先生方の**自己課題が整理・更新**されます。また、初任の先生方の自己課題解決に向けて共に考えていくことで、学校全体の研修にもつながっていきます。長期休みの研修に取り上げてみてはどうでしょうか。

自己課題の解決に向けた第一歩

～諏訪市立上諏訪中学校　鶴田智穂先生の自己課題設定までの歩み～

今年度４月より、中学校保健体育の教師としてのスタートをきった初任者の鶴田先生は、球技ネット型バレーボール（１学年）の授業を通して、自己課題の解決に向けた第一歩を踏み出しました。鶴田先生の授業での様子と自己課題を設定するまでの歩みを紹介します。

授業に関わる自己課題

「授業の終わりに学習をしたという気持ちがあるか」
「場面の切り替えの工夫」

鶴田先生は、中学校に入学して初めてネット型の学習する生徒たちのために、**“空いている場所を狙ってボールを返す”というネット型の特性を味わってほしいと願い**、第一時である本時の授業を構想しました。そこで、導入の場面で映像を使って目指す姿のイメージを共有したり（写真１）、ゲームのルールを工夫したりして（図１）、生徒が今もっている技能でネット型の特性を味わえるようにしていました。

写真１「映像を使った導入の場面」

- １チーム３人
- レシーブ、トス、アタックはキャッチ＆スロー（種目のバレーボールのようにはじかない）
- 相手コートに落ちたら１点
- サーブは投げ入れで、どこからでもよい
- バドミントンコート
- やわらかいボール

図１「教材研究を通して工夫した、ゲームのルール」

ゲームが始まると、**“空いている場所”に関する声掛け**をたくさん聞くことができました。また、得点が決まると、歓声とともに、**自然とあふれてくる笑顔**や**拍手する姿**を見ることできました。そして、振り返りの場面では、**“空いている場所”に関して次時どうしていきたいか**、発言したり記入したりする姿が見られました。

写真２「ゲーム中の様子」

次からも相手チームのコートを見て、人がいないところに返したい【振り返り用紙より】

写真３「振り返りの様子」

上記の声掛けや振り返りは、鶴田先生が願っていた、“空いている場所を狙ってボールを返す”というネット型の特性を味わっている姿でした。この生徒の姿は、鶴田先生の**自己課題の一つ**「(生徒たちが)**授業終わりに学習をしたという気持ちがあるか**」**の具体につながる姿**でした。

このように、自己課題の解決に向けて一歩踏み出した鶴田先生ですが、ここに至るまでに、どのような歩みがあったのか振り返ってみます。

4月11日
スタート
研修

研修後半では、「目指す授業」について４～５人のグループで協議をしました。
鶴田先生は、協議をはじめるにあたり、「目指す授業」のキーワードに『成功体験（「できた」「わかった」）』と『伝える』を挙げていました。
そして、協議の中で他の初任の先生の「目指す授業」に触れ、鶴田先生に次のような変化がありました。

> 協議を経て、私の「目指す授業」が少し変わった。**学びの楽しさに気付ける授業**を目指したいと感じた。そのためには、成功体験のある授業、安心して受けられる授業を展開することが必要だと感じた。
> 【研修講座の振り返りより】

他者との対話を通して、**「学びの楽しさ」**の大切さに気付き、**「目指す授業」を更新**していました。

5月9日
授業力
向上研修Ⅰ

鶴田先生は、茅野市立東部中学校　池上一輝先生の国語の授業参観をし、先輩の授業から次のようなことを学びました。

> 50分の中で、授業者の先生の工夫がたくさん感じられた。**導入の場面**の習慣化された工夫は自分自身に生かせると思った。生徒のことを考えた**板書**の工夫がされていて、とても勉強になった。（中略）今回の授業を見せて頂き、**自分の考え方がアップデート**された。
> 【授業力向上研修Ⅰのまとめより】

目指す授業の具現に向け、授業の**課題が「導入の場面」「板書」など具体的**になってきました。**先輩の授業を参観することで、新たな視点に気付き自己課題をアップデート（更新）**している様子が印象的です。

6月6日
教師力
向上研修Ⅰ

日々の実践の積み重ねや様々な研修を経て、鶴田先生は、次のような自己課題を設定しました。

> 授業関わる自己課題
> **「授業の終わりに学習をしたという気持ちがあるか」**
> **「場面の切り替えの工夫」**

スタート研修で思い描いた「学びの楽しさに気付ける授業」とは、授業終わりに学習したという気持ちがある（「できた」「わかった」が実感できる）授業と捉え、**「学びの楽しさ」をより明確**にしていきました。また、授業力向上研修Ⅰで学んだ「導入の場面」の工夫の大切さは、**「なかの場面」「まとめの場面」も含めた「場面の切り替えの工夫」という自己課題へとつながって**いきました。
そして、鶴田先生は、自己課題を設定する意味を次のように感じていました。

> 自己課題を設けることで、**今の自分の状況が整理できる**こと、**今後の目指す姿が明確になってくる**ことを学んだ。それは、教師としての自分だけが必要ではなく、自分自身の**生き方にも影響がある**ので、自己課題を設定する力を身に付けていきたい。　【教師力向上研修Ⅰのまとめより】

自己課題を漠然と設定するのではなく、**何のために設定**し、**どのようにいかしていきたいか**、鶴田先生自身が**願い**や**思い**をもっていることがわかります。このように鶴田先生は、自分事として主体的に研修に参加しながら自己課題を設定してきました。

節目節目に行われる校外研修だけでなく、日々の実践やそれに関わる校内メンターチームでの対話、先輩先生の授業参観等を通して、初任の先生方は「目指す授業」に向けて、**新たな課題に気付いたり、自分の考えを更新**していきます。
各校初任の先生方の自己課題は、**どのような経緯**で設定され、**今後どのように更新・アップデート**されていくのでしょうか。**長期的な展望もイメージしながら**、初任の先生方の主体的な歩みに寄り添ったり、新たな気付きを促す問いかけをしたりしていただけるとありがたいです。

外国人児童生徒等に関わる皆さん

多角的な視点で子どもに寄り添う

～ 6/1 第1回外国人児童生徒等指導研修会 ～

外国人児童生徒等の指導や支援に関わる方々が参加する研修会をオンラインで開催しました。『捉える力・育む力・つなぐ力・変える力～外国人児童生徒等教育を担う教員の資質・能力「豆の木モデル」から考える～』をテーマに行われた講義とその後の情報交換の様子から、大切にしていきたいポイントを2点、皆さんと共有したいと思います。

ポイント① 指導者が4つの要素を意識する

『豆の木モデル』とは、外国人児童生徒等教育を担う教員に求められる資質・能力の４つの要素、「**捉える力**」「**育む力**」「**つなぐ力**」「**変える力・変わる力**」の関係性をイメージ化したものです。例えば『日本語指導』は、「育む力」の一つで、「日本語・教科の力の育成」という課題領域となります。目の前の課題に目が行きがちですが、多角的に子どもの成長をとらえ、個別の指導計画に反映したいですね。

参考：モデルプログラム→

図：『豆の木モデル』
外国人児童生徒等教育を担う教員の養成・研修のための「モデルプログラム」ガイドブック　より

指導主事

日本語教室担任

私の意識が言葉の学習に偏っていたなと気が付きました。まずは「捉える力」を発揮して、子どもの文化的背景や発達段階に目を向けていきたいです。苦手な「つなぐ力」については、校内で相談していきたいです。

ポイント② 学校全体で課題を共有し、連携しながら支援する

講義の中で紹介された、外国にルーツを持つ子どもが全校生徒の５７％在籍する県外公立中学校の実践がグループ協議で話題になりました。**日本語教室担任だけでなく、教科担任も、子どもが身に付けたことを発揮する場面を設定**しているなど、学校全体として取組んでいる様子が紹介されました。

令和５年５月17日付け５広共第36号・５情法第26号「施行文書及び県公式ホームページにおける職員名の表記について」により、本稿の該当箇所はホームページ上では非公開とさせていただきます。

【理科】実験場面で、**実験の手順をフローチャートで示したカードを頼りに実験を行う**実践が紹介されました。**生徒同士で「一緒にできた」という感想**が印象的でした。

【国語】**漢字練習ノートに母国語訳を書き込む場所を設ける**実践にハッとさせられました。漢字練習の横に、**日記での活用例（モデル文）を示す**実践は早速取り入れたいです。

指導主事

日本語を母語とする児童生徒の学びも意識し、在籍するすべての子どもを育成するという視点（つなぐ力）を大切にした実践紹介でした。担任一人では実現できないことも、校内の全職員で課題を共有し、知恵を出し合うことで実現できることがありますね。参考にしてみて下さい。

10月19日（木）に、本年度最後の研修会を計画しています。より具体的な授業実践や指導方法、進路指導について情報交換の場を設ける予定です。支援のための新たなヒントを得る機会にもなりますので、ぜひご参加ください。開催要項は9月に各学校に配布いたします。

夏休み!! 体力UP 大作戦!

紙コップクラッカーでキャッチボールあそび

つくってあそぼう

新聞紙であそぼう

穴あき新聞紙で

よちよち きょうそう

いっしょにあそぼう

うちわでパタパタ ふうせんとばし

ダブル キャッチボール

★作り方・遊び方動画はこちらから★

過去の運動遊び特集動画もご覧いただけます。

↓↓↓ https://bit.ly/3Rmebyn

- ○つくってあそぼう
- ○しんぶんしであそぼう
- ○タオルであそぼう
- ○なわとびお手本動画　　など

夏体力UP

（先生方へ）

※この特集ページは、このまま増し刷りをして ご家庭に配付していただいて構いません。